

江戸川区

【児童・生徒数】
48,319名

【学校数】
102校
(小学校 69校 中学校 33校)

【江戸川区の特色】

- ・四方を海と川に囲まれ、多くの親水公園がある自然豊かな街
- ・共生社会の実現を目指し、SDGsに積極的に取り組んでいる



【課題・改善】

- ・運動やスポーツの頻度は全体として増えたが、中学校女子における「ほとんど毎日」の割合が6月と比較し、約12.5ポイント減少した。運動やスポーツを楽しみながら、週当たりの運動やスポーツのする日数を増やす必要がある。
- ⇒ヨガ教室以外にもエアロビクスやダンス等、中学校女子のニーズにあった多様な活動を今後実施する。

【実態・課題】

- ・令和3年度東京都統一体力テストの体力合計点平均値を東京都と比較すると、小学校高学年以降下回り、学年が上がるにつれ、開きが大きくなる。
- ・1日あたりの運動時間が1時間未満の割合は、それぞれ45.2% (小学校)、37.0% (中学校) となっており、運動をする子としない子の二極化が課題である。
- ⇒児童・生徒の運動・スポーツへの興味・関心を高める。
- ⇒運動習慣の定着を図っていく。

目標

- ・授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思う子供の割合の増加
- ・運動やスポーツをする頻度や時間が増えたと思う子供の割合の増加

【成果】

- 〈なわ跳び出前授業・ヨガ教室〉
- ①実施学年、「運動やスポーツをもっとしたいと思う」が約6.2ポイント増加
※体力テスト (令和4年度6月比)
- 〈教員研修〉
- ②参加教員、約96.8%が職務に生かせると回答
- 〈ヨガ部〉
- ③運動やスポーツの頻度「ほとんど毎日」が約9.0ポイント増加
※体力テスト (令和4年度6月比)
- ④一日の運動時間「1時間以上」が約5.0ポイント増加、「30分未満」が約17.2ポイント減少
※体力テスト (令和4年度6月比)

【取組】

- 体力向上委員会による体力向上プログラム
- なわ跳び授業の取組
 - ・藤沢祥太郎氏 (なわ跳びパフォーマー) と連携し、区内小学校18校で出前授業を実施
- 教員研修の取組
 - ・江戸川区体力向上委員会と連携し、教員を対象に研修を実施
- レクリエーション部活動の設置推進プログラム
- ヨガ教室の取組
 - ・江戸川区ヨガ協会と連携し、区内中学校5校でヨガ教室を実施
- ヨガ部に外部指導員を派遣

【取組 (詳細)】

体力向上委員会による体力向上プログラム

○運動遊びにおけるなわ跳びパフォーマーと連携した取組の充実

児童にとって取り組みやすい「短なわ跳び」について、なわ跳びパフォーマーによる出前授業を実施することで、児童の技能向上、体力向上、運動意欲向上、運動習慣の定着につなげた。



○体力向上委員会と連携した教員の指導力向上を図る取組の充実

児童・生徒の体力向上を目指した体育授業の研究及び各学校への提案を行った。また、体力向上委員会における「運動遊び」出張実技研修を実施した。



なわ跳び出前授業を小学校18校で実施した。なわ跳びパフォーマンスでは、子供たちから大きな歓声と拍手が沸き起こり、短なわ跳びへの関心を高めた。なわ跳び指導では、技によって持ち方を変えるなど分かりやすいアドバイスを受けた。



中学校体力向上委員会による授業公開を行った。生徒が楽しく体を動かして、心と体をほぐす授業実践について学んだ。

多様な「運動遊び」の方法について知り、日常「全校運動遊び」等の取組をより活性化させることを目的に、小学校5校で「運動遊び」出張実技研修を実施した。

レクリエーション部活動の設置推進プログラム

○江戸川区ヨガ協会と連携したヨガ教室における多様な運動機会の創出

運動を身近に感じ親しんでもらうことを目的に、ヨガインストラクターを外部講師として招へいし、ヨガ教室を実施した。



中学校5校でヨガ教室を実施した。生徒はヨガには様々な効果があることを知り、関心を高めた。運動が苦手な人でもチャレンジできるので、安心してヨガに取り組むことができた。

中学校3校に設置しているヨガ部に外部指導員を派遣し、指導の充実を図った。生徒は、自分の体の状態と向き合いながら様々な動きに丁寧に取り組んだ。